

賞に輝いた林建設（鹿児島市）の『法面親綱の安全性と施工性の向上』スイングブレケット工法（ロープマスター）』。発表12事例のトップに選ばれ「現場で頑張っている作業員が考えたことが、こういう形で表彰を受けたことは会社全体の誇りになる」と素直に喜ぶ。支持に改めた。

「段取り変えるたびに、スイングブレケット工法は、現場で働く熟練の作業員が発案。モルタル吹き付けなど法面施工の際に作業員をつなぐ親綱の摩擦防止装置を創意工夫し、従来は单管パイプを交差させたり点支持だが、单管パイプを多くの字に組み合わせた2点への登録にも意欲的で、「アイデアが生まれるのは現場。現場からアイデアを上げていくと会社が活気づく」と語る。（榮）



会社全体の励みに

重い吹き付けホースを一番まで上げなければならないが、この工法では、作業範囲が従来の倍以上に拡大するので、法面の上り下りが少なくて済む」と説明し、「高齢化した作業員は、転倒すると大きなけがにつながる恐れがあるが、効率よく作業できる」とも。

全国建設業協会（浅沼健一会長）主催の2011年度技術研究発表会で最優秀に輝いた林建設取締役副社長

小野 剛氏

同社では、工事成績80点以上を取得した場合、社長が報奨金を出し、特許取得や国土交通省の新技術情報提供システム（NETTIS）への登録にも意欲的で、「アイデアが生まれるのは現場。現場からアイデアを上げていくと会社が活気づく」と語る。（榮）

**技術会
全発表
最優秀に林建設
のり面施工の効率アップ**

全国建設業協会(全建)、
辻沼健一(会長)は、24日
に開いた技術発表会で、
林建設(鹿児島県)の
「のり面親綱の安全性と
施工性の向上」を最優秀
賞に決めた。のり面の吹
き付け工事を行う際に用
いる親綱設置装置に、回
転ジョイントなどを設け
るなど、一度に施工で
きる範囲を拡大するアイ
デア。30年以上の経験を
持つベテラン作業員が考
案した。2~3mの間隔で
親綱設置装置を設けてい
たのが、6~7mが間隔で
広がることができたとい
う。商標登録の手続き中
で、特許取得も目指して
いる。このほか、優秀賞
3件と特別賞1件が選ば
れた。

林建設が考案したのは
「スイングブランケット工
法・ロープマスター」。
従来工法では、施工範囲
は約30度だったが、親綱
設置装置の根元に60度ま
で振ることができる回転
ジョイントを設置。親綱
外れ防止クリップや転倒
防止チエーンと併せて利



用することで、安全性と
効率性を両立させた。鹿
児島県発注ののり面工事
に導入したところ、工期
短縮が図れ、工事評価点
の高得点にもつながった
という。同社の小野剛副
社長は「創意工夫しながら
ささいに技術の研究なんが
努めたい」と喜びを語っ
た(写真)。

同社は、特許取得や国
土交通省の新技術活用シ
ステム(NET-TIS)への
登録を社員に積極的に
推進しているという。新
工法の名称を社員から公
開するなど、積極的に

【優秀賞】
△型枠の中を見る工夫
△管路掘削におけるバッ
クホウバケットの改良
△合田工務店(香川県)
△松谷建設(北海道)
△ア
ークリル板型枠の使用によ
るコンクリート構造物の品
質低下防止と施工性の向
上を図る△河原土建
(栃木県)
△「工事だより」を使
つた近隣対応△小幡建設
(青森県)

募ることで、モチベー
ションアップも図ってい
る。親綱外れ防止クリッ
プは、工法を考案した島
田勇信さんの名前から
「結親(ゆうしん)」と
命名。回転ジョイントは、
安全(A)で広範囲(K)
施工可能な下がり機
(B)と施工範囲の60度
を組み合わせて「AKB
60」と名付けるなど楽し
みながら取り組みを進め
ている。

このほかの入賞技術は
次の通り。



全建技術研究発表会で最優秀賞を受賞した林建設取締役副社長

小野剛氏



全国建設業協会（浅沼健一會長）。「親綱摩擦防止装置」を改良し、法面施工での転倒を防ぎ安全性を高め、施工範囲も拡大し施工効率の向上を実現した。

表会で、「法面親綱の安全性と施工性の向上」
スイングブランケット工法
ロープマスター

「私一人でつくるた
く」という技術で最優
秀賞を得た林建設
考えたのは、現場で働
く人」。実際に働き現
心と言つても過言では
(鹿児島市、林隆秀社)

会社をあげて創意工夫



度技術研究発表会表彰式

場で活用する人自らが考え取り組みで受賞でききたことに、喜びもひとしおで「社員の励みにもなる」と満面の笑顔で上り下りする事は大変重労働だ。この技術で「施工範囲は倍になる」ため、そうした苦労を少しでも軽減できると言う。

年をとると、(法面施工で)例えば50倍もの斜面を何回も重いボスをもって上り下りすることは大変重労働だ。この技術で「施工範囲は倍になる」ため、そうした苦労を少しでも軽減できる」と言う。

ない。「どんどん人間、夫するひとや、特許を取り組んで受賞できるように社長が号令を出している」。さらに同社では、工事評議80点以上の成績には賞金を出し、インセンティブを与えていると言う。

に、常に意識をもつて取り組むことで、社員同士も刺激になる。現場は利益を創出するだけなく「アイディアもある場所だ。会社を活性づけていくためにたまの思い付きではない。特許等に対する「社長の意識が強い」から取り組みを続けていきたい」と力強く語った。